

池の平湿原

池の平湿原（いけのたいらしつげん）は、かつての三方ヶ峰（さんぼうがみね）火山の噴火口内で育まれた独特な高山生態系である。標高 2,000 メートルの場所にありながら、標高 2,000 メートルの場所にありながら、多様な高山植物の生息地となっており、夏には 100 種類を超える植物の花に一面覆われる。

この湿原は複数のエリアに分けることができる。火口を取り囲む斜面の大部分には木々が茂っており、北側の稜線が主にカラマツで覆われているのに対し、南側の斜面にはコメツガの原生林が広がっている。火口の中央には、雨と雪解け水が長い年月にわたって堆積した結果、湿地帯が形成され、ヤチボウズやガンコウラン、アヤメの群生があちこちに点在している。また、南西部には鏡池（かがみいけ）があり、晴れた日には周囲の峰々の姿がその湖面に映し出される。池の近くには、粘着性のある腺毛で虫を捕える食虫植物であるモウセンゴケが生えている。湿原の南東の端は火口の縁が崩れており、その一帯に生えているコケモモやクロマメノキの低木の群生に、複数の希少な種類の蝶が集まってくる。

湿原には、イタチに似たオコジョや、ニホンカモシカ（ヤギレイヨウと呼ばれることもある）などの大型動物も生息している。周囲のこずえでは多くの小鳥のほか、トビやノスリの姿を見ることが出来る。また湿原はアオダイショウとジムグリという 2 種類のヘビの生息地にもなっている。これらのヘビはヤチボウズに穴を掘って産卵を行うことで知られている。